
活動の概要

今年度から 2 年生の学年担当になったこと、2 年生の構想発表、中間発表等をソフトピアジャパン ドリームコアのメッセで実施することなどが重なり、前半はそれらが円滑に進行できるようにサポートをした。後半は、アカデミーとの統合後初の修了研究発表会が 2 月に実施するため、どのような内容にすべきか、こういった体制で運営するのかを学内で意見を取りまとめ、運営に携わった。

学内での活動

1 システム委員会

学内ネットワークや、LMS、グループウェアに関する管理、業者等との定例会などに関わった。また、IAMAS 2013(期間 2/21~2/24)のネットワーク環境についてソフトピアジャパンの職員・学生らと共に担当した。また、f.Labo のネットワークについても岐阜イノベーションセンターのネットワークを拡張するための作業等を行った。

2 校舎移転に伴うネットワークシステム構成案の作成

ソフトピアジャパンエリアへの移転に際して、現状のネットワーク構成からどのような構成にすべきかを、現行業者、工事業者らとともに調査し、ネットワーク構成案や概算などの方向性について検討した。

3 システム系の内部での定例会

システム委員会とは関係ないが、システム管理専門職、教務課の事務の方々とともに現在のネットワーク構成、e ラーニングシステムやグループウェアの活用方法などについて話し合った。また、現状の問題点となっている、教務システムについても話し合い、どうすべきかについて検討をした。

4 研究委員会

プロジェクト研究発表会を所管する委員会のメンバーとして関わった。これまでの卒展といわれていた修了研究発表会内でのプロジェクトの扱いなどについて委員長や教員、RCIC などと話し合い、毎年 4 月に学内で開催するプロジェクト発表を修了研究発表会の場で実施することとした。

5 学長適任者選挙管理委員会の委員

2012 年度末は、学長の任期満了にあたるため、9 月以降は学長適任者選挙管理委員会の委員として参加し、選挙の円滑な進行ができるようにサポートをした。

6 修了研究発表会・プロジェクト研究発表会

概要や研究委員会の欄でもすでに記述したように、アカデミーとの統合後初の開催ということもあり、どのように IAMAS を見せていくのかという点を今後の方向性も含めて学生や教員らの意見を取りまとめた。また、学生主導の委員会を作ったとしても、2 年生の人数は昨年度よりも減ってしまうため、1 年生の参加どのようにするかについても話し合った。結論としては、1 年生はプロジェクトの担当者として参加し、2 年生は全体も含めて運営することとなった。

学内外での活動

1 スマートフォン・タブレット端末の福祉分野での活用研究会（座長）

昨年度まで実施していた、「障がい者の生活支援・障がい児教育等への利活用を目指す研究会」を改めスマートフォンなども含めて ICT の活用を考える研究会を開催している。メンバーは、本学の他に、日本福祉大学の先生、バーチャルメディア工房ぎふ、情報技術研究所、ソフトピアジャパン、福祉工房あいちのメンバーで 5 月以降、月に一度のペースで開催した。研究会で扱う対象は、iPad のアプリ（や関連したハードウェアも含む）などの情報共有サイトの提案と、障がい児の就労支援アプリの開発、タブレット端末の研修会（年間で 2 回実施）の 3 点に絞った。この内容は次年度以降も引き続き実施する予定である。

2 「一歩さがって二歩すすむ」東京 SHIBAURA HOUSE

上の研究会で対象としている、情報共有サイトの提案に関してレクチャーをした。

タイトル：レクチャー「タブレット端末を障がい者の生活で活かすには？」[8]

日時：2012 年 12 月 21 日

場所：SHIBAURA HOUSE（東京都港区芝浦 3-15-4）

3 IAMAS 小学生ワークショップ 2013

総合学 B の授業の中で、小学生向けのワークショップを考えるということをテーマに実施した。今回はその実践として、IAMAS2013 と同じソフトピアジャパンセンタービル 1F を会場に行った。私はそれらを実施するサポートとして役割を果たした。

日時：2013 年 2 月 23, 24 日

場所：ソフトピアジャパン センタービル
1F 信長像付近



図 1 ワークショップの様子

4 感性情報に関する研究（共同研究）

名古屋工業大学 中村先生、中京大学 加納先生らと共にロボットにおける感情をどのように捉えるか、また人の心理状態を推定するなど、ロボットと人間が共生するためのキーとなる感性情報を扱う手法についての共同研究を行った。[1][2][3][4][5][6][7][9][10][11][12]

5 飛騨産業からの受託研究

飛騨産業(株)からオンライン見積もりサイトの構築を 5 月から受託研究として受けて実施した。メンバーは学生なども含めて、4 名で実施した。

6 公立大学協会情報部会の運営

2012 年度は本学が会長校として情報部会を開催するため、ソフトピアジャパンの大会議室にて

会議を 11 月 16 日に開催した。

学外での教育活動

1 多治見高校での出前講義

多治見高校の自然科学コースの生徒へ画像処理等の簡単なプログラムの出前講義を行った。講義は、10月12日に行われ、web カメラを利用し、Processing を使った画像処理プログラムを題材にして、演習をした。

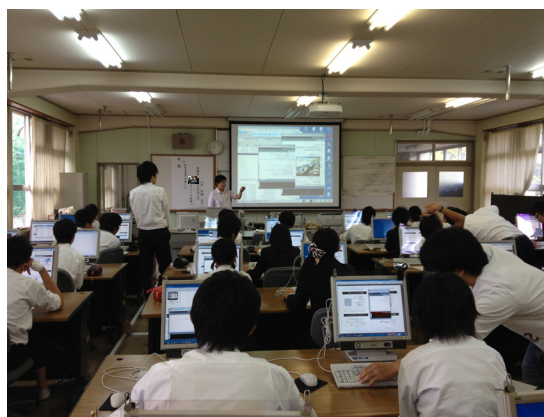


図 2 出前講座の様子

2 大垣市 IT 致道館校長

大垣市が主催する小学校 5,6 年生向けの Lego マインドストームを使ったロボット講座があるが、校長としてプロジェクトに参加した。5月～12月までおおよそ週に一度開催されている。講師はトリガーデバイスの佐藤氏が行っている。

3 大垣市子供 IT 講座「iPad でパラパラ漫画を作ってみよう！」

平成 24 年度第 8 回大垣市こども IT 講座「iPad でパラパラ漫画を作ってみよう！」が 3 月 23 日に情報工房にて行われ、サポートとして参加した。



図 3 大垣市子供 IT 講座の様子

4 朝日大学歯科衛生士専門学校の非常勤講師

10 月から 2 月まで毎週月曜日に朝日大学歯科衛生士専門学校にて情報処理の非常勤講師として授業を行った。

発表論文など

- [1] Yoshihito Maki, Genma Sano, Yusuke Kobashi, Tsuyoshi Nakamura, Masayoshi Kanoh, and Koji Yamada, "Estimation of Subjective Stress-via Simplified Biosignal-Measurement", Intelligent Decision Technologies(Proceedings of the 4th International Conference on Intelligent Decision Technologies(IDT'2012)), Vol.1, SIST15, pp.509-517, 2012
- [2] Yoshihito Maki, Genma Sano, Yusuke Kobashi, Tsuyoshi Nakamura, Masayoshi Kanoh, and Koji Yamada, "Estimating Subjective Assessments using a Simple Biosignal Sensor", 2012 World Congress on Computational Intelligence(WCCI 2012,

FUZZ-IEEE)

- [3] 牧義人, 中村剛士, 加納政芳, 山田晃嗣, “モバイルな脳波センサにおける目開閉の影響の調査”, 第 33 回東海ファジィ研究会 pp 61--pp65
- [4] Yoshihito Maki, Genma Sano, Yusuke Kobashi, Tsuyoshi Nakamura, Masayoshi Kanoh and Koji Yamada, “Estimating Subjective Assessments using a Simple Biosignal Sensor”, ACIS International Conference on Software Engineering, Artificial Intelligence, Networking and Parallel/Distributed Computing (SNPD 2012), in CD-ROM, Kyoto, Japan, August 8-10, 2012.
- [5] 牧義人, 中村剛士, 加納政芳, 山田晃嗣, “簡易な脳波センサにおける開眼・閉眼の影響の調査”, 第 28 回ファジィシステムシンポジウム, pp632--pp636
- [6] 前田光泰, 蟹井瞳, 中村剛士, 加納政芳, 山田晃嗣, “進化計算を用いたゲームエージェントの行動則の獲得”, 第 28 回ファジィシステムシンポジウム, pp713--pp714
- [7] 牧義人, 加納政芳, 山田晃嗣, 中村剛士, “RSNP を利用した遠隔地の雰囲気伝達サービス”, 第 30 回ロボット学会学術講演会 (30 回記念一般公開事業ロボットコンテスト「RSNP を利用したロボットサービスコンテスト」), in DVD-ROM, 2012.
- [8] 山田晃嗣, 「タブレット端末を障がい者の生活で活かすには？」一歩さがって二歩すすむ SHIBAURA HOUSE のレクチャーを実施
- [9] 杉本健, 中村剛士, 酒向慎司, 加納政芳, 山田晃嗣, ロボットとのインタラクションに基づく心理状態推定に関する研究, 第 34 回東海ファジィ研究会, pp51--pp52
- [10] 奥村明德, 中村剛士, 加納政芳, 山田晃嗣, 村川賀彦, クラウドネットワークを利用したロボットマインドの生成とその表出, 第 34 回東海ファジィ研究会, pp61--pp62
- [11] 奥村明德, 中村剛士, 加納政芳, 山田晃嗣, 村川賀彦, RSNP を用いたクラウドネットワークからのロボットマインド生成とその表出, 情報処理学会全国大会, 2013
- [12] 杉本健, 中村剛士, 酒向慎司, 加納政芳, 山田晃嗣, 高齢者の語りかけ情報を利用した心の見守りサービスの RSNP による実装, 情報処理学会全国大会, 2013
- [13] 高井大輔, 小林孝浩, 山田晃嗣, 画像処理を用いた硬式野球ボール品質評価手法の提案, 情報処理学会全国大会, 2013